



「ゼロカーボンシティさがし」

～2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～

近年、世界各地では猛暑や豪雨など地球規模での温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、日本国内においても、これまで経験したことのない豪雨や台風等により各地で甚大な被害が発生しています。このまま地球温暖化が進行すれば、「気候非常事態」とも言うべき極めて深刻な状況となり、人々の生命や財産を脅かし、生態系に甚大な影響が及ぶことが懸念されます。

このため2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。この目標達成には「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

佐賀市は、2010年に「環境都市宣言」を行い、2014年に「バイオマス産業都市」に認定され、2015年には東よか干潟が「ラムサール条約湿地」に登録されるなど、環境との共生に配慮したまちづくりを進めています。

その取り組みとして、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を分離回収し藻類培養や農業に活用するCCU事業、また、電力の地産地消、再生可能エネルギーの普及など、環境と産業の統合的向上を目指しています。

これらの取り組みを引き継ぎ、次の世代に持続可能な地球を残すために、本市では2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティさがし」を目指し、市民や事業者等と一体となって脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいきます。

令和2年10月20日

佐賀市

